

平成19年度奄美群島サンゴ礁保全対策協議会
サンゴ礁の再生に向けた稚サンゴ移植試験調査結果報告書

1. 調査概要

サンゴ礁の再生の可能性・手法等についての調査。昨年度、実施したサンゴ幼生着床具による種苗後の移植試験を行う。

2. 調査方法

- (1) 瀬戸内町デリキョンマ崎にて、種苗、畜養している着床具を回収。
(着床具840個／昨年度調査では、幼生着床率51%)
- (2) 着床具の着床サンゴ生存率を精査。
- (3) 移植先（黒崎／清水）の海底に、移植用の穴を穿孔。
- (4) 水中ボンドを用いて、着床具を固着。

3. 調査結果

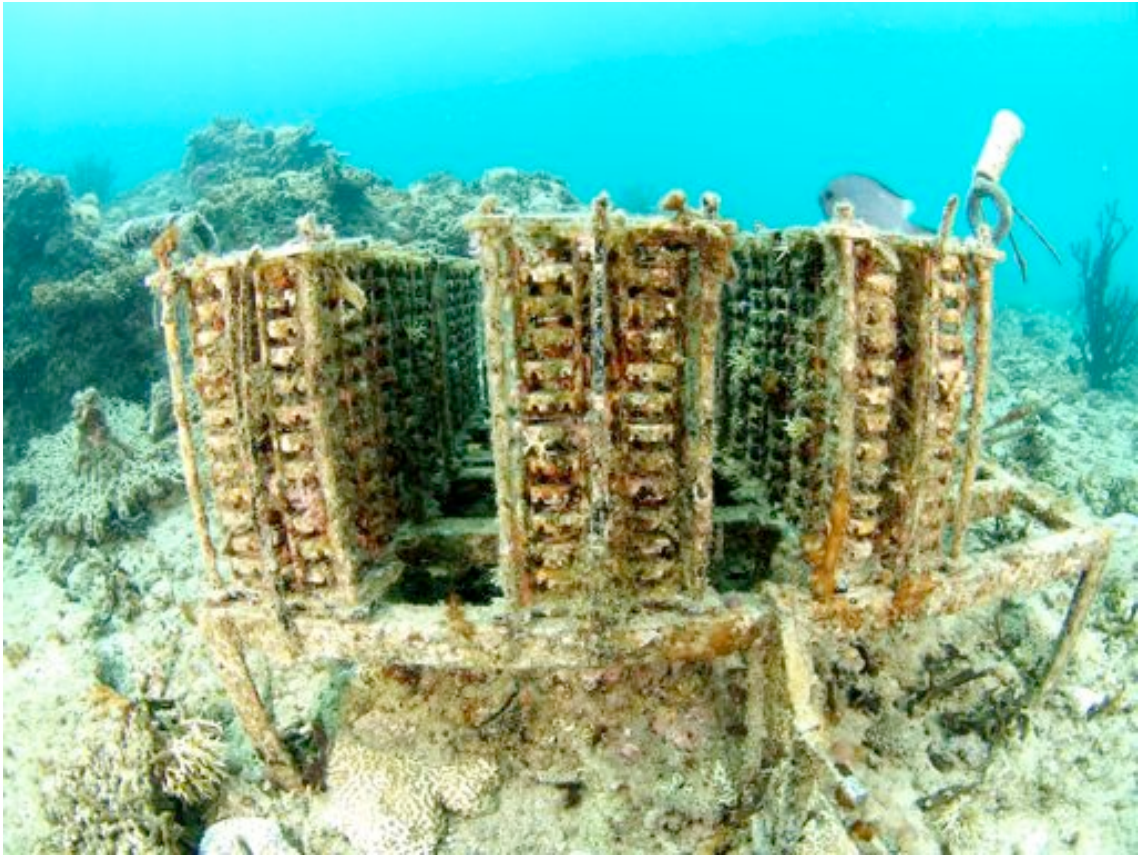
昨年、9月に回収した着床具120個中、61個の着床具（幼生着床率51%）、計89個体のサンゴ幼生が定着していたが、今回、回収した着床具840個中、稚サンゴが定着していた着床具は、135個であった。着床具におけるサンゴ生存率は16%で、予測を下回った。定着していたサンゴは、トゲサンゴが最も多く、全体の7割を占め、残りはハナヤサイサンゴであった。ミドリイシ属の定着はなかった。着床具には、カイメン類やコケムシ類、二枚貝類が多く付着し、全面を被覆された着床具もみられた。稚サンゴが定着していた着床具135個は、黒崎および清水に移植した。

調査日	移植先	回収着床具数	移植着床具数	サンゴ生存率
11月1日	黒崎	120	31	
11月15日	黒崎	240	30	
11月16日	清水	240	38	
11月20日	清水	120	18	
11月22日	清水	120	18	
	計	840	135	16%

4. 考察

昨年度、ミドリイシ属の着床が無く、ハナヤサイサンゴ属での移植試験となったが、今回の試験で、採苗から移植までの一連の作業を確認できた。今後は、ミドリイシ属のサンゴ幼生採苗海域の選定が課題。

調査写真 1



昨年デリョンマ崎に設置した着床具の状況（11／1）



セットハンマーとチスによる穿孔



金ブラシによる付着藻類の除去



水中ボンドによる着床具固着



水中ボンドによる着床具固着

調査写真 2



移植トゲサンゴ (1 1 / 1)



移植ハナヤサイサンゴ (1 1 / 1)



清水における移植状況 (1 1 / 1 6)



移植トゲサンゴ (1 1 / 2 0)



移植ハナヤサイサンゴ (1 1 / 2 0)